

芸術科

主任：藤田 貴子

(1) 今年度の目標

- 1年：基本的な理論や基礎的な表現技術の定着を図り、自分の視野を広げていくとともに心豊かな生活の創造に芸術を生かせるような態度を育む。
- 2年：1年次に培った基礎的表現力の上にさらに創意工夫・応用して自己の表現能力を高めてレベルアップした幅広い表現活動ができるようにし、生活の中で芸術を楽しませる。

(2) 主な取り組みの計画

- ①中学校での学習内容の把握と復習をして、表現の基礎・基本となる理論や技術を的確に指導する。
- ②年度末の『学習成果発表会』に向けて、段階的な到達点を各自（グループ）で設定して計画的に取り組ませることで、自主的な計画性を育成するとともに、創る喜びと発表する達成感を味わわせる。
- ③個別指導に重点を置き、個性の把握と理解に努め、個々に合わせたきめ細かい指導を心がける。

(3) 成果

<音楽>

- ①表現の基礎・基本となる音楽理論や歌唱、器楽における演奏技術は、講義形式や全体練習、個別練習、動画や参考音源による自主練習において、概ね身に付けることができた。
- ②学習成果発表会に向けての選曲、編曲、練習内容など、それぞれに目標を設定し取り組むことができた。発表する場をイメージすることで自ら表現しようとする意識が高まった。
- ③全体練習においては技術習得について個人差がでるが、個人練習時に個別指導の時間をとること、また互いに教え合う時間を設定することで演奏団体（クラス）としてのレベルアップにつながった。

<美術>

- ① 描画材料、表現材料についての知識や、造形表現について美術概論や美術史を講義で学び、プリント学習や作品制作を通して内容理解を深めることができた。
- ② 年度末の学習成果発表会に向けて主体的に取り組ませている。完成作品の発表の場を設けることは生徒の制作意欲に繋がっており、制作活動を通してそれぞれが持つ世界観を自由に表現できる機会になっている。
- ③ 机間巡視を重点的に行い、質問の機会を増やすことで、制作中の躓きをできるだけ早く解消できるようにした。また、個別指導の中で制作計画を立て、相談しながら個々に作品の完成条件、目標設定を考えた。

<書道>

- ①例年重点を置いている書写から書道への導入部分に、今年は十分に時間を取ることができなかつた。その影響か、特に1年生の中に古典に対して苦手意識を持っている生徒がいるように思われたが、古典を基にした創作作品の制作や古典の比較や鑑賞の時間を多く取ることにより、授業内容について興味を持って取り組んでいる生徒が増加した。
- ②学習成果発表会に向けての作品制作に取りかかる時期が今年は遅かつたためか、制作意欲が乏しいまま取り組んでいる生徒もいるように思われた。まわりの友人たちとの相互鑑賞の時間を増やし、様々な意見を取り入れて自分の作品制作に活かせられるようにした。
- ③創作作品の制作は長期にわたるので、途中で意欲が喪失しないように、最初の段階で表現したい雰囲気やねらいをじっくり考えるよう個別指導に重点を置いた。2年生は、初めて制作する掛軸や刻字作品などに熱心に取り組む生徒が多く、家に持ち帰って飾れるようにすることにより、表現することの喜びや達成感が向上した。

(4) 課題と次年度以降の改善策

<音楽>

基本的な理論や基礎的な表現技術は、それぞれの実践につながるよう工夫できたが、演奏技術の個人差については、個別練習や模範動画による練習等により改善は見られたものの、まだまだ課題が残る。生徒が相互に教えあうことも取り入れているが、それに加え、各自の演奏の振り返り、音源を使っての合奏体験など、短時間で個人差を埋めるための練習方法を模索していく。

<美術>

1年生は鑑賞活動において自分の考えをまとめ、積極的に発言できる生徒が多く、生徒同士で自由に意見を交わし、新しい気づきや学びを得ることができている。また互いの意見も認め合うことができている。作品制作においては全体的にテーマの設定が弱く、造形の美しさに囚われ過ぎて“表現”という部分では課題が残る。

2年生は主体的に自由制作に取り組んでいる。テーマを大切にし、言語からイメージを展開させていく練習に重点を置いたが、その練習に時間を割いたため自由制作に十分な時間を残してあげられなかったことが課題である。

<書道>

授業の進度が速いと感じている生徒がまだ多い。準備に時間がかかり遅れている生徒もいるので、個別に声をかけたり時間配分や目標を各自で考えさせたりして、毎時間授業の流れを考えながら取り組めるようにする。

授業内容に興味を持ったり、分からないところを分かろうと努力している生徒が増えている。今後も教材の精選をはかり、特に苦手意識を持ちやすい単元については各自でその都度目標を細かく設定させるなど達成感を得られやすいように配慮していく。